

様式 3  
実 績 報 告 書

応募者名 滋賀県長浜市立北中学校マルチメディア研究推進委員会		整理番号 No.	
研究主題	生徒の「自ら学ぶ意欲」を引き出す情報教育のあり方を求めて - マルチメディア教育の環境活用の工夫 -		
研究の目的	<p>来るべき21世紀は、高度情報化社会といわれる。生徒に、このような社会に主体的に対応できる資質や能力を育む教育の推進は、今後の学校教育にとって重要であると考えます。</p> <p>本校では、こうした社会的な課題に応えるべく教育活動全般を通じて「情報活用能力」の育成を図りたいと考えます。また、マルチメディア環境を中心に、他の機器や資料・用具等を効果的に組み合わせることで指導していけば、生徒の「自ら学ぶ意欲」を引き出し、生徒にとって「楽しい授業」「やりがいのある授業」が展開でき、特色ある教育活動が実践できるのではないかと考えます。</p>		
研究の仮説	<p>(1) 授業で様々なメディアを活用し、多様な学習活動を展開すれば、メディアの特性を理解し、より効果的に情報を収集したり、相手に伝えようとする意欲が高まるのではないかと。</p> <p>(2) 日常生活のモラルの向上を図りつつ、インターネット上の諸問題について自ら考える場を設ければ、ネットワークでのコミュニケーションのあり方や問題点、情報の信頼性、信憑性、善悪などを正しく判断できる力を養うことができるのではないかと。</p> <p>(3) 職員のコンピュタリテラシーや情報リテラシーが高まれば、情報教育への実践の意欲が高まり、授業実践の広がりが生まれるのではないかと。</p>		
研究成果の概要	<p>(1) コンピュタリテラシーと情報リテラシーについて 生徒の実態を見ると、コンピュータを活用した学習活動を十分に体験していない段階の生徒の意識は、コンピュータはゲーム機の延長線上に近いところにあるように思われる。しかし、授業での活用を通して、徐々にその意識の変容が見られるようになってくるように感じられる。目的を持ってWebを探索したり、メールで交流をするようになると、機器の取り扱いも丁寧なものになり、無駄な時間を過ごさなくなってきた。そして、その次の段階では、時間を惜しんで取り組む姿が見られるようになってきている。コンピュタリテラシーの伸長に伴って、情報リテラシーも身に付いていっているのではあるだろうか。</p> <p>(2) メディアの効果的な活用について 交流学習において、多様なメディアを準備して取り組ませたところ、生徒は、通信手段としても、また、調査手段としても、試行錯誤を繰り返しながら、徐々に目的に即したメディアを活用するようになってきた。</p>		
研究に要した経費	品名	数量	金額
	CU-SeeMe 会議の達人 2	1	57,750
	スキャナ 6台	1	80,640 ( 12,800 / 1台 )
	リームバブル・メディア		14,000
	図書資料費等		25,000